元亨釋書 二重 大

特別
へ5
6054
4

八5特
6054
4

宮内省圖書寮

神

神祇之部

紙とえうむさま
いろはうたの

(い) 岩船 伊勢講 板枕
(イワフネ) (イセカウ) (イメバウラ)
湯泉 忌明 忌作
(イモイ) (イミアキ) (イミタケ)

(は) 放生会 鄙の神 祈願 伊信 (に) 二荷火燎 (ほ) 星仏
(ハウジヤウエ) (ハモリ) (イデシ) (ニハヒ) (ホシホトケ)
猪屋作 (と) 鳥兵 長安 仏師
(ホヤツクル) (トリ井) (チヤウアン) (ブツシ)

(ぬ) ぬりけく (を) とこ敬 おそ焼
(ヌリケク) (ヒメキ)

(わ) 門祝 (か) 片そぎの 韓神 神楽 (た) 道祖神 大賞会 (れ) 彩
(カヒ) (カウシンニチ) (カンシン) (カミ) (ダウロクシン) (ダイシヤウエ)
歌 庚申待 神宴
(カウタ) (カウシンニチ) (カミ)

(そ) 衣 (つ) 月 (ね) 根 (な) 菜の むぐさ 蕗の とう 苦の もり
(ソ) (ツキ) (ネ) (ナ) (ムグサ) (フキ) (ニガ)

(む) 夢想 (う) 猪鼎 (ら) 宝紙
(ムサウ) (ウノハ) (ウチヒ)

(く) 新宮 (や) 八尺の鏡 (ふ) 舟玉 (こ) 御殿山の神
(ニイミヤ) (ヤタ) (フナダマ) (コイ) (ミドヤマ) (カミ)

永田文庫

57-2503

鞠足くら牛王沸封わ天の男戸 掃弓 東遊 わゆひ
くつれれ さ 紀伊 ゆ 湯たて湯 うま 東綿 ま 御膳 物 連川
川後 御輿 四園 三す 宮居 古文 弟 社 われ社 わくら
社稷 社れ い 神木 神亀 え 絵 る 名びと 塚 ひ ひりぐ も
市社 寺社
畑いと し 洗米 撥文

非

非神祇祠 は 放生川 橋姫 に 鞦 と とくとくとくと
ち 血忌 り 新祇 新宮 た 新田姫 や 山伏
き 工 ハウ 文字 て 天狗 さ 佐保姫 神 ゆ 綿付島 い 精進

釈

釈尊之祠 い 釈迦如来 は 掃部 ろ 論議 六道 六斎日
掃部の茅 坊官 坊主 坊 寄坊 奥の 坊 里坊

宮丈 花瓶 鮒口 に 入道 饒侍 ほ 法華 法眼 法橋 法名
芝居 ほ 法師 ゑん 掛 ま 法同 陪堂 瑠璃 ぼ 菩薩の名 と 東堂
塔 二階塔 三重塔 五重塔 多宝塔 卒塔婆 禁 市 村 ち 長老
尾上塔 石の塔 くも 多宝塔 九輪 と 禁 市 村
茶堂 地獄 持戒 破戒 り 律師 輪蔵 輪室 輪 る 流伝
を 和尚 わ 新宮の男 ゆ 御 ゆ 御 ゆ 御
た 法華 魂 道師 ろん 寄堂 迦 と 迦 と 迦 と
け 掛板 袈裟 孝 名 名 名 ふ 仏像
本尊 元祖 本尊 元祖 市 施 こ 四師 五輪 金剛杖 持杖 五山
悟道 て 典 寺 山寺 里寺 律寺 門徒寺 寺 寺 寺
ち 仰塔 む ひく 室の戸 う 腕 ゐ 法 国
果 ひ ひぶ の 教化 く 切腹 火宅 伝 元祖 開山 祖師

(あ)奥後灌頂　門国梨尼　(さ)三界　西堂　(か)元孫
(き)楽門　行堂　(た)高野山　(く)ものひとつ寺へ　(け)
(み)命日　三の車　(い)上人　(ま)貴尼書記　(ふ)ほのぼのと　(む)
釈門　(う)他仏　(ち)聖人　十億　宿業　常灯　(こ)
(ね)香　焼香　(え)廻向　(い)彼岸　(ひ)笠　(も)門跡　(せ)
(た)持　(ぜ)禅師　(せ)頂学　施餓鬼　(す)珠数　(て)百八　(ら)
(ん)滝つ　(ば)滝題

(ひ)非　非天高祠

(こ)恋　恋之祠　(い)わが弟　(ゆ)いろ人　(ま)男　(ま)ふ　(ま)
いとこ　(ま)きのみち　(ま)のほぞし
いとこ　(ま)記　(ま)有　(ま)いとこのこと　(ま)いとせ　(ま)嫁ら
(ま)いとこ　(ま)いとこ　(ま)いとこ　(ま)いとこ　(ま)いとこ　(ま)いとこ　(ま)いとこ　(ま)

(は)花輦　花嫁　(ふ)肌　(ま)ふ　(ま)ひと　(ま)ひと　(ま)ひと　(ま)ひと　(ま)ひと　(ま)ひと　(ま)ひと　(ま)ひと
(ま)ふ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ　(ま)れ
(に)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
二世のちぎり　(ほ)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(ち)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(へ)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(り)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(ぬ)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(る)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(を)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(わ)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(か)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(よ)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(た)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま
(れ)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま　(ま)ま

(そ) 神の森 そこの森 神の海 そこのこづく そこさき 神のたち番 立花 笹ぐら 立花の番

神川 たちそむらく 神 流づ きし 流 元 (つ) 瓜ぶし

はれるさ はれるさん はれるさ心 蜻蛉 いもうと さみ 辻うら 辻 考 はれるな

はるりやし 瓜とるす 扇 扇を用のさうり (ゆ) 湯ごと

念者 孫みれ 餅 (な) 湯 川湯 湯 うさ 湯 海湯 のけ

湯の海 おさくりろさ うんだ

(む) あまそく あぐち なるし

(う) 鼻へ 蛇 むし むしふの 井 虫の井 ちた 花 情ちゑの立 わくゑ

蛇 蛇 蛇色 つまる 蛇 蛇の海 蛇 蛇 蛇

武蔵野にくさ〻生て門にそゝるとなり金鈴こゆるぎん 鈴

ぬしの香ふかしもおもふ詠日 号意なり

(に) えんとしとぶえみ (て) もとゝ

ひゝとめうてうけめて (わ) わふせわぐゝ

わざゝれわざゝわそびのね園わくゝ わふさゝ

わゝにく 曉のあさ わいぢん彩 を枕 わをせわゝぬのけさ

(さ) けゝめてゝさゝやゝさゝうゝわゝ (き) 衣く 君 (ゆ) 湯女 ゆゞ

夢 夢 夢

倫理 ㊀ みとせんぐりさ 夢れ ゆ 幽玄 遺言 め 冥途
み 三世門 い ほとけ 三途川の姥 ほとけの石 死よの旅 死人 死装束 九解
自殺 ひ 人魂 指 花 花束 も 喪に服し中陰 りゆの掛
人倫之部

述懐之部 い 命 生死 ろと 貴 は ちげさく さびる
ろ ろさ ろ あ かれ ろ せ 世代 接の 孔 ろ 秋 子 辛忌 ら
住 流人 む むしゃ ろ へ 姥 ろ ろ ろ ろ せ 貴食 ゐ 孫 ん
酒 ち 光 釈 み く 月 忌 や 寡 ま 継 み 眉 ん 孔 ち 辛
ふ 不弁 市 ん こ 乞食 ほ ん ほ 苦 ん 衣 ん け 弁 と み 弟
の ろ ち い 牛 ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん
ひ 貴報 貴 ち せ 世帯 俺 す 男 言 拾 ろ 弟 す り

非述懐部 を 愚 つ 徇の義 く 夢 病 イ 寄 と 居 て
ろづのめ ろづのみ 紫の ち せ 病 す ぐ て 病 こ 鶏 育 女 さ 在 久 い 賦
い 醫師 家の ち 妹 ろ 六人 は 花の ち
非述懐部

人倫之部 は 師匠 母 祖母 ほ 法師 と 図書 友達 ら 町人 長 祖父
り 猟師 ぬ 賢人 を 義 釈 ん 伯父 伯母 女 小児 わ 男
ち 童 ん 喝 食 拙 女 神 ん 猟人 強盗 かべ ら
笠 ち よ 夜盗 た 道 ん 先 民 警 近 代
官 見 ん 盗賊 ん 大 ん 義 先 僧 つ 兵 書 月 の
わ し 月 の 京 孫 宣 念 ち な 内 義 ら 郎等 む 奪

姫るかく　ふごう　焼　後書　すいの　侍大夫　農人　村
傅女　お宮の人　師匠　女　くすり　上人　山伏
仮名　嬢　寡　野老　野良　うげま　遣る　馬　密夫
孫　傾城　流れ者　武士　仏師　舟人　舟長　こ　乞食女
ほる　て　駄と人　亭主　妾者　妾　商人　兄姉　主
海士　嫂　さ　張り　侍　酒の酔　酒の酔してハ悪　き　狂人　漁翁
樵夫　ゆ　湯女　め　姪　み　身孤　子入　し　彫物
泉流　下　仕丁　役者　儒者　師匠　鳥の鳴人　姑
舅　い　尼　比丘尼　特　せ　関寺　尉

非

非人倫類

い　一門　一族　ろ　古紙　は　猪姫　坊官
に　女院　人名へ名人　ほ　凡夫　本道

本院　と　東宮　ち　長老　北臣　ぬ　ぬやうし　法商賣職人　を　和尚
唖　り　私　か　わくさ　行場　た　太子　代官　旦那　ら　祖師
俗　つ　新年　ほとと　な　墓　ら　老女　う　氏　れ　大きと
大坊　く　宮女　なる　や　山姫　け　お神　下戸　脊屬　ふ　二
人　ま行　て　典薬　欲　さ　弱兵　新式　酒の酔　き　狂仕
め　同付　み　宮　し　新院　新式　ゆ　門跡　育月代　せ　仏

居

居所之類

い　家　庵　長り井尚　いろり　ろ　擂　路
ヤと　戸　床漬　か　格子　格子　垣　略井　囲　假屋　瓦　厠
た　宅　柳　墓所　墨　ろ　外面　つ　築地　坪内　な　納戸　ら　掘下

京

ひ 棟子村 か 井筒の 野牛 暗屋く 蔵や 宿屋 魚花 魚弁

やぐら め 宮 け 玄関 ふ 風呂 こ 火燵 て 天守 亭 天井

さ 星 座敷 ゆ 湯屋 み 人世 間 し 都 漳 城 岩 兵

ふ 扇 ひ 廣間 も 門

非

非 非常 ね

く 皇居 庫裡 や 社 て 寺 す 蔵 まり 射 を 門 蔵 みとも こ 所

め 眼 蔵 み 宮

い 稲 葉 いらっ 火 鼎 は 花火 狐 化 物

非 非常 と

に 鶏 燎 ほ 蛍 星 星 と 渇 と 魚 鍋

灯 蔵 とり 火 照射 宿直 床 り 行灯 を 送り 火 狼

紀 ち 紀 る か 仲間 ぐら 猪 蚊 蚊やり 火 ぐら

鶏 か ぐら の ち よ 横 鳥 流星 た 七夕 紅 鶏 たい ま

ル 夫 る 燭 台 月 高 て 辻 孫 麻 言 時 魂 猪

み 嵐 ぶら 麻 風 ら 嵐 燭 む 夫 ぶ ら 物

ま 舟 理 火 う く ぶ 夫 く 書 く や 夫 ま 花

ど ど ま ふ ま く う 食 ふ ん こ 言 て 挑 焼

て 行 焼 間 伽 じ ま ぶ わ ぶ て

ま 日 晩 わ け し

ア 明 る る 物 ん 夫 川 綱 代 ノ 床 き 狐 衣 く ゆ 木綿 付 る

ユ 夢 出 夫 め 明 星 み 三ヶ月 入 て 紙 燭 涼 文 東 京 メ

非

非 非常 ね

い いぶ り 代 の 床 入 れ 稲 荷 た 寄 合

ど 灯 心 泡 泡 舟 泡 猪 き 鳴 節 会 か 猪

京

(え)庭山　(お)夜と泊月　(う)長嶺　(い)常ノとり火　(な)夏神楽

(け)くの月　(く)九徒　(こ)心の月心のやゝ木ぬけて　(て)葉ノ紅ろ

(あ)アこと　(さ)岸　(ぬ)ぬるゝ　(ぬ)ぬるゝ　(さ)庵移　(こ)家

(ゆ)名月夜　(ま)ぬれ　(ぬ)ぬるゝ　(ま)ぬるゝ　(み)三ケ月　(む)躍

(や)山伏やまひの床　(ひ)一夜酒　(ち)火を焼　(ち)火とり　(ち)りの光

山

山類之部

(は)畑　(か)かけ　(そ)そば寺の塔　(ほ)ほを　(ほ)洞　(を)尾上小滝の音

(そ)そゝ　(た)岳　(た)嶽谷流れ　(う)

(ほ)ほ　(ま)松木　(つ)九折　(う)浮滝　(や)山ノ姫山ノ姫山ノ嶽　(た)

(の)の　(ま)松滝　(ふ)布瀑　(こ)五山　(さ)坂　(み)岩　(し)滝　(す)炭竈

非

非山類部

(い)岩橋　(は)柳瀬　(よ)吉野里　(た)たつた川　(う)朽人

(つ)つ　(う)宇治の川滝　(や)山科の関山　(ふ)富士川　(こ)絶滝　(ゆ)

(ま)ま　(さ)猿　(み)三滝　(し)滝国　(ひ)氷室　(せ)宮山

(す)炭焼　(ス)麻川　すゝ滝　すゝ地

水

水部之部

(い)池泉　(代)寺　(ち)漁火　(は)橋

(ぬ)沼　(を)沖小滝　(か)柱　(た)澄水　(よ)夜ぶり　(ま)月の出　(つ)

(ま)ま　(ま)松　(ま)松　(ま)松　(ま)松　(ま)松　(ま)松

�み 湊 汀 みなと 澪 加島門 桜 水屠 三津 三井寺
澪印 澪漂 澪木 ㋑ 焙 焙 焙

四 四季十二月 并 季綱

春 太陽 太帝陽 蒼天 東方 招光

正月 ひつさくの月 孟 初月 日 孟月 日

いとひの月 上陽 孟 大簇 泥月 孟

月 元始 初陽 源月 因孔 孟正 孟月 孟

月 釈迦ゆさぶる月 ものこの月 もいつ

それを思ひ月 ものこの月 もいつ

孟水 孟月 乃初 卯 卯 寅 乃 卯 寅 乃 卯 寅 乃

初夏　余月

如月といふもみの花月といふさと異名なり
律中呂にわたる也中呂もいろ

五月　さつき　月ふた月　たちつき月　仲夏　蘭月
　　皐月
　　五月雨を皐月といふ　たちつき月　仲夏　蘭月

六月　みなつき　風月　ふみ月　壹月　林鐘
　　白月　朔月　陽氷
　　みなつきといふことをみなつきといふ　文月
　　文月を月　貞徳　月律林鐘にわたる　ゆなすと信乃なまぐ
　　てにをはのあやまりかわるまちなり

秋　白藏　昊天　金商　明景　爽籟

七月　ふみづき　ふつき　文ひろげ月　七月　涼月　孟秋　夷則　孟秋
　　七月は文ひろげ月と
　　七月は文ひろげ月と夷則　い七月の律なり
　　蘭月　葉秋　もいろ

八月　ふつき　秋月　月ふた月　仲秋
　　南呂　壯月　中律　紅月
　　八月は南呂　南呂は八
　　月の律なり

九月　長月　菊月　小田刈月　紅葉月
　　末の秋　季秋　季村　菊月　俳
　　末の秋季秋

父〻 元英 尓雅 上天 玄帝 律 檀 文選 羽音

○十月 かんなづき 阿毎月 初霜月 小春 初冬

孟冬 陽月 遊猟

上冬 纂要 良月 左傳 玄月 折木 秦正 巻の

世の正月とや

十月を神無月とは伊勢物語の

あれはてぬ人や待らんとよしなきものを

思ふ人ありけるを又男の

思ふ人ありけるを

世継寄

又何抹家集抄云一天下九神皆月とい

ふは神在月なり

神の法神

有り集り給ふ故なり

出雲国

なを用ふ陽月とも

又ある法は陽神のなさ月といふ

おのづから月と神

又業阿記云

遊猟ハナ月の儀

○十一月 霜月 黄鐘 天正月

葦月 黄鐘 天正月

周の世は十一月を正月とす是を唐家

も天正月といふ黄鐘は十一月の律なり

○十二月 しはす 去年月 極月 臘月 除月 大呂 極月 俳諧月

むかしは法師ども

ものくるしきをはしりくるをはしり

思ひして走るとなり

又ある法は陽神のなさ月といふ

おのづから月と神

又業阿記云

遊猟ハナ月の儀

○十一月 霜月 黄鐘 天正月

葦月 黄鐘 天正月

周の世は十一月を正月とす是を唐家

も天正月といふ黄鐘は十一月の律なり

○十二月 しはす 去年月 極月 臘月 除月 大呂 極月 俳諧月

むかしは法師ども

ものくるしきをはしりくるをはしり

思ひして走るとなり

季

季題　いろはうた

(い)

正寝積 俳　寝挙 月俗云えるの寝　凍こんな 俳　(二)
陽稲 糸わくふ 起とり　紙帽 俳　紙衣 月ちびのぼり
(三)　石山みふ 俳 音一葉 寺祭 俳　稲荷 中 年
虎杖 俳　(四)　いろり祭 初午一八 俳　ぼうふの
岩藤 俳　岩梨 月 俳　すれ　(五)　人寄祭
十月　寝蚤　まいつちご 蛇いちご 俳　(六)　いちご鴨 俳
十月　いづこ 雷とみ 俳　(七)　年九 生月魂 月 歌の
竹 結　稲作　稲の 俳　いがぐり　蟾蜍 俳　いなご 俳
いなご 田虫　(八)　いもるとろ　人法の 殺生と云 モ
十やや 俳

いものくさ 他 ちくさぬくく　稲負鳥 イナヨセドリ 色 鶯 ヒヨリ　ほくミ　やしと 蓼
やまりく　ひりく　ぼくく　みりく　かわり　ゆり
月白　ひる川　ぼく　ぼくん　やく　ぼくく　ぼくさ　ぼくれい
みそまい 鶯 ウグイス　ほしろかる　稲葉 イナハ　稲 イナ　稲荷 イナリ　(九)　生姜 ショウガ　大阪　色 イロ
かわ　いてう　銀杏 俳　擽 イナ井 俳　(十)　実ノの解 実
作 雲 猪　(十一)　華川祭 イナワカワ とり 月の日　凍 イテ 俳　鮎 イサ 俳　(十二)　忌 イム 月
の御 ゴ 二　六月トなし　又門林の ハヤシ 奏 文月の 祭神 ニン 今 コ
食是 大宮 六月 行ハトなし

(ろ)

(三)　炉 ロ とろく 俳　(六)　六月 會 ろ 俗教 ろ 音　(七)　六道 ロクダウ
糸 俳 ろ 建 信 れ 南　六ろのまき 貴 俳　(十)　炉 ロ 開 ヒラキ 俳
炉 建 ろ 日 風 炉 裏 日　炉 火 理 火 日 炉 日 火 炉
炉 火 炉

正 歯固 京 しらぬひ 鏡餅 八幡 祝ひ 俳 胡鬼板 四十四

胡桃 物忌 破魔弓 物鳥 物夢 玄猪 俳

節会 ちりけ 餅 物賞 俳 物賞 日 物忌 辛 盲

物忌日 梅の日 物富 俳 上寅日 鳥

ちりの 龍 俳 まの宮 二 物年 ちる 蜂 俳

蜂巣 日 物射 日 物酒 日 物いみび 日

物搔 ちさく 萩の ちめ 烟草 ちたく 蜂 俳

俳 三 鎮花祭 神武 花錦 花の雲

花の波 花の波 花馬 花車 花車の

花車 花揃 花軍 風流陣 天室遺事 花の

宴 ちくこ 花 二月 四 花滴 八月 戒壇 寒帳

梅天 天 花 花の根 日

五 花菖蒲 俳 花柘榴 日 六 橋菜 日

百日紅 俳 蓮 荷葉 日 蠅 日 七 花火 俳 物乱

萩 鹿鳴草 役草 萩の殿 芭蕉

行の 俳 物 物 武八月 物

特 俳 物 日 八 八朔 俳 行器 日

物 物 物 物 物

潮 九 波打女祭 物 物 花 花 俳 物

物 河 物 物 氷 土 沖 物 物

月の 月の 物 物 物

十一 と 俳 と 物 俳 物 物 物

に

正 庭竈 俳

二 二月堂は みづは みんなは

三 彩雲

栗摘 庭掃 さくらふは

一さくらは

六 賣梅 俳 梅づけ 梅ひき

十一 庭燎 かがり の 曲名

九 彩綿

ほ

正 蓬萊 ほうらい 俳 松は さかりは みは 田は みは 梅は 搗栗は 掃は 野は 串は 樺は 梅干は

右 皆 ほうらいを ながめ

海老は

四 郭公 ほとゝぎす ほとゝぎの 田植 みの 鶴 無常 鶴

蜀農鳥 杜鵑

這孤 俳 ほうこ 掃 ほうき 虫は

五 螢 ほたる 螢火 俳

三 木瓜の花 かぼけ 俳

ちやく 俳 厚朴の花 俳

七 本彩る花 并に

六角池坊 七夕は わるし

徳 ほうき 作

風紙花 ほうせんくわ

木瓜の実 俳

八 徳 ほうき 蓼 俳 蓼花は

鬼灯 ほうづき 紅 ほうづき

十 撥 ほたて 俳

十一 報 ほう

思講 ゆうかう

或 ハ 如 ハ 有 ハ 如 ハ 有 ハ

十一 星 ほし 仏 ほとけ 俳

へ

二 蛇 へび 完 ちまた 俳

五 蛇衣 へびのきぬ

六 糸瓜 へちま 俳

八 蛇 へび

と

正 年頭 とうしのかしら

白散 とうさん

屠蘇 とそ

度瘴散 とうさん

年 とし

徳利 とくり 俳 汝利賽 とくり

男 俳

年玉 としだま

追 とりつめ

桃 とう

符 俳 桃板 桃摸 神茶 鬱壘 唐の風俗

桃の木の札 神茶 鬱壘 門に

年越 としこし 俳

二 東海 とうかい

とうかい 俳

巢 とうの巣

鶴 とう

三 土佐の海 とさ 石取 とさ 俳

五 とし

鴨 とう

照射 とうしや 串 とうし

六 土用 とよう 俳

七 灯籠 とうろう

屠蘇の酒 とそ

鳥 とり

擂 とう の実 俳

団栗 どんぐり

九 とろめ花 とろめ花は 紙 とろめ 用 とろめ

十 東福寺開山忌十月十日 十一 豊の明の節會 十二月中辰日 採物 抹茶 扶桑 冬至梅 十三 年内立春 年内立春 年内立春

ち

正 帳面 二 地出 花 三 沉丁花 茶摘 花 長 四 地主祭 茶 菓子 五 粽 こもちまき 角粽 粉 拜粽 拜雛粽 九月節句 六 初生鶴 蓮華 七 地蔵祭 粽 九 重陽の宴 菊酒 菓子 茶の花 千鳥 十 茶の日

り

三 りんごの花 六 林檎 七 立秋 秋の月 秋の夜

ぬ

五 蓴菜 十 蜻蛉

を

正 押鮎 二 歌祭 師走 月夜 三 遅き日 五 慈姑 七 送火 三井寺 小 車の花 八月中旬 九 生稲 晩田 ひつち田 十 蛍 十一 小忌衣 しるの初日

わ

正 若夷 花 若水 若水 掃除 若菜 七種 薺 鶏鳴 竹五 仏の座 千代の菓子 二 若草 初菓子 若草 若草

かぎろひ　三　わかめ　和布　あ　鮎　小うを　四　ひさご　瓢　ゐ
楓　もみぢ　紅葉　ゐ　葉　蓮　五　忘れゐの花　萱草　あ　竹　こし　竹
ぐこ　瓢　九　ひしも　菱　十　沼　ぬこ　瓢

か　正　門松　そて　松　瓢　ひらけ　行日　葦索　昌の木　瓢　昌　杖
ちりそしな　女の　腰　とうたりまて　寒　三月　寒の衣　ちりそす　寒の網　ゐ
寒ひ　八重　うぐひす　寒の沼　二　春　上巳日　祭　上巳日　赤　赤日　白　とり
白　とり　海　海の　あ　海の　ひれ　蛙　かへる　蟇　かへる　ゐ　三
寒食　冬至ノ後百五日　少し　搬　故事　海棠　ゐ　ゐ　花　ひらけ　蕾　四　堅固祭
上巳日　蛍　蛍祭　中ノ巳ノ日　ひ　ひ　拂　ひ　ひ　ゐ　ゐ　花　ひらけ　ゐ　ゐ　ゐ

神の名 神しろく [illegible] 月の四日 [illegible] 牡丹の [illegible] 桔梗

[illegible] 花 [illegible] 菊 [illegible] 蓋 [illegible] 鴨わらび 鴨 [illegible] 氷 [illegible] 鴨 [illegible] 鴨 [illegible]

紙 [illegible] 十 [illegible] 奥入 [illegible] 十 [illegible] 日 [illegible] 日 [illegible] 祭 [illegible] 日

雙置 [illegible] 弟 [illegible] 神 [illegible] 狩 [illegible] 狩 [illegible] 雉子

[illegible] 石花 十一 [illegible] 酒 [illegible] 酒 [illegible] 酒 [illegible] 梅 [illegible] 梅 [illegible]

よ

正 [illegible] 餘寒 [illegible] 二 [illegible] 餅 [illegible]

三 [illegible] 十 夜 [illegible] 十一

[illegible] 祭 中の申日 十一 [illegible] 大根 [illegible]

た

正 たつこ [illegible] 海苔 [illegible] 二 [illegible] 田螺 [illegible]

[illegible] 花 [illegible] 田 [illegible] 三

桃花の節句 [illegible] 雛 [illegible] 高雄

鶴合 [illegible] 桃華生玉洞 [illegible] 挑兼賢金溝

法華会 十日 四 [illegible] 祭 [illegible] 新田祭 [illegible]

賀茂祭 [illegible] 日 [illegible] 法華 [illegible] [illegible]

[illegible] 五 [illegible]

午の節句 [illegible] 蓬 [illegible] 六 [illegible] 七

[illegible] 田楽 [illegible] 蓮 [illegible] 竹 [illegible]

七夕 [illegible] 七夕 [illegible] 河鼓 [illegible] 七夕

[illegible] 綱 [illegible] 魂祭 [illegible] 聖霊棚 [illegible] 八 [illegible] 田姫

[illegible] 田と寄 田と呼 九 鰹節 [illegible]

[illegible] 遠長寿 [illegible] 遠長[illegible] たちの [illegible] 草將

[illegible] 紅草 [illegible] 蒔草 [illegible] 草 [illegible] 草 [illegible]

夏と行　初夏の花　浦和より多く咲く　東の花　能　夏の花

なりし　同　五　内膳司　佐早瓜　山城の国　夏草　能　茅の子　同

生胡桃　同　南天の花　同　六　夏柳　夏切茶　能　柳の子

石竹　ところ　撫子　能　夏の雲　能　七　さくらめ　能　八　東　能

菓　行　能　大根を引けば　同　九　鳴子　九月八日

名木散　菖蒲　南天の実　能　十　名木　名木

生海鼠　能　十一　中宮　十二　内侍所　行幸

ら

五　蘭湯　十七　蘭　十二　朧梅　能

む

正　馬　騎物　能　梅　梅を梅よりみる

う

梅の実　同　三　麦　能　同

四　梅の実　同　向日明神　中辰　麦の花　麦秋　五

むくげの花　七　迎鐘　能　木槿　月令　能　生合　能　十

ちよとまつとむくげ　九　撰　能　梅の実　能　十

梅の実　能　十一　しの宮　十二月

う

正　訓　能　卯杖　槌　土龍　能　魚木　月令　能　肥後

二　獨活　能　魚と魚　三　うこぎ　能　四　卯の花　能　平花

五　うぐひす　八月　能　五　うぐひす　能　平花

鳥川　能　鳥の巣　能　六　温風　七　盂蘭盆　十五日

ね

五 サンギ 俳

の

正 ノリユミ 十八日 長岡うらうら 萬 負ける 金長者 賞の琴 貧乏 ときのこころ

二 のびる 俳 三 のびる 菓 六 清霄花 俳 七 結昆

八 アツリ 異つさ 沙弥 蛍 八 ノキク 野菊 俳 ノワケ 野分 九 ノイヂリ 野苺 俳 豆腐 栗 月

十 月のあめ 竺三義 ノヤ 野山の道 野山のけしき

は

正 オトコ 男 蹴鞠 ハウカ 平 青竜 わたれる 綿 女蹴 ハ十六日 二 オホハラノ 大原野 ハ日

八 うつる 俳 菊香 ウイキヤウ 念佛會 ナンブツエ 十日 ウレユキツ 雪 引橋 俳 カユ 粥 八日 或 臘 八粥 カユ 弾 うぐひす 俳

九 大秦 ウツノ 十日 十一 湯糟 ウソウ

く

正 元日 月のこころの 元日 節會 セチエ 氷様 ヒタメ 豚赤懸 ブタアカ 国栖 クズリ 笛 ヒヤウ 請司 ウケ 七曜 御暦 クラヒキ 蔵開 クリクカミ 具足鏡 クカミ 二 くくり 俳 クカ 菓

三 暮れ ムスヒ 菓 四 灌佛 クワンブツ 八日佛生会 龍花会 浴佛五香水 仏のぶ

四 大ぶり 俳 ヒ月 七 躍 オドリ 萩 ハギ 花 俳 九 忍 オカリ 藤 十 音 とり 水 俳 十一 門 オンミツリ 祭 ハ七日 南都 十二 門佛 フツミヤウ 十九日

六 大祓 ハラヘ 百 門 ハ 十 オトリ 一向宗 有 大社 オヤシロ 神事 中 十二 大原野 ハラノ 中 日

久世の宮 中巳 ㊄ 藥玉 ㊅ 鞍馬山 切 俳 雲の峯 ㊆ 菖花

山梔の花 水鶏 ㊅ 鞍馬山 切 俳 雲の峯 ㊆ 菖花

観音草 俳 常山日 蜀漢の心 日 壷中 日 ㊇ 葛根 葛花

俳 菖蒲 ㊈ 下り藥 くられ ㊉ 鞍馬 九月 ㊉ 吳服の日

わらくまつの津国 池田こうの十七日く 九日 ㊉ 萬 久年母 日 ㊉ 梁塵の夷日

胡桃日 くれの秋 九日 畫 秋と惜む ㊉ 亦色忌 十三日 ㊉ 鯨

ほくく 俳 ㊉ 業吟食 俳

や

㊀ 厄神祭 雛九月 ㊀ 柳 ㊁ 八幡

梅 紅梅 俳 ㊂ 藥師寺の寂勝會 七日 天武

天皇元門祭とも ㊃ 山吹花十日 ㊄ 揭桃の花 俳

ま

㊀ 松の花 ㊁ 馬刀 俳 ㊂ 眉作の花日 ㊃ 松尾

桑 酉の日 ㊄ 扇 ㊅ 仏本祭 一日 俳 ㊆ 天蓼 俳

蔵 ㊇ 槙賀 俳 ㊈ 山慈姑 ㊉ 仏生人

㊊ 揺柳 豆 日 黒豆 ㊋ 盂宗 ㊌ 角

ま

㊀ 松の花 ㊁ 萬 日 蹈鞴の節の

馬刀 俳 ㊂ 眉作の花日 ㊃ 松尾

桑 酉の日 ㊄ 扇 ㊅ 仏本祭 一日 俳 ㊆ 天蓼 俳

蔵 ㊇ 槙賀 俳 ㊈ 山慈姑 ㊉ 仏生人

㊊ 揺柳 豆 日 黒豆 ㊋ 盂宗 ㊌ 角

や

㊀ 厄神祭 雛九月 ㊀ 柳 ㊁ 八幡

梅 紅梅 俳 ㊂ 藥師寺の寂勝會 七日 天武

天皇元門祭とも ㊃ 山吹花十日 ㊄ 揭桃の花 俳

ま

㊀ 松の花 ㊁ 馬刀 俳 ㊂ 眉作の花日 ㊃ 松尾

桑 酉の日 ㊄ 扇 ㊅ 仏本祭 一日 俳 ㊆ 天蓼 俳

蔵 ㊇ 槙賀 俳 ㊈ 山慈姑 ㊉ 仏生人

㊊ 揺柳 豆 日 黒豆 ㊋ 盂宗 ㊌ 角

け

正 けらく 賀 俗 三 けん第 四 蠣殼花 夏

五 ちらけ甲 俗 巣の巻 晋 葱 花葉 毛と

獣 異特 八 鶏冠花 茎 毛 田の毛 俗

元日 十五音 けらの崖 俗 十 下

ふ

正 太箸 俗 ふさつと 俗 船 船系物 船玉祝 筆試

ぎぶり 俗 汐 汐 日 ふつふ 日 ふつふ 日 ふつふ 日

吉書 二 朝鱈 日 三 羽

羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽

四 ふ人 草 高 草 俗

牡丹 俗 ふつふ 花王

五 粉団 射 唐 故 滴粉団 水団 白団

六 富士詣 俗 ふ市 ふ河 ふ河 ふ河 ふ河 ふ河 ふ河

朝 俗 姫 俗 八 芙蓉 俗 水芙蓉 草芙蓉 蒲萄

こ

正 去年 今年 ふ ふ ふ ふ ふ ひの ふ 暦 俗 御 俗 八 日

東風 氷解 氷 ふ ふ 水 ひ ま 末 風 二 こ 海 俗 三 辛夷

四 小鮎 小鮎 小 花 俗 こ で 海 日 小 梅 の 花 日 四 更衣 百

小 鯵 俗 六 う 海 で 日 ふ ふ 十八 日 七 御 夏 八 日 五

蕨 弱 む く 月 の 弱 御 夏 俗 十八 日 金 閣 草 衣 う

蕨 月 の 弱 御 夏 俗 十八 日 金 閣 草 衣 う

碓 ま ふ り ま ね 日 こ の ち 沢 桔 梗 小 鶯 俗 小 鶯 俗 沢 桔

わ ま ま 俗 ち ち ち 日 ま ま ち 沢 桔 梗 小 鶯 俗 小 鶯 俗 沢 桔

九 不堪田巻 旨是ハ諸国ノ田損亡ト 日録 仲手摂 俗 ヅ 日

ま ち ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま

柴漬 魚 ま ま 食 蒲団 俗 ま 彩 ま 海 十一 牡丹

ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま

ま 俗 ま 日 草

十二 札 ま め 俗 ま と 日

九 門香宮祭 九月 伏人有 木幡祭 北野 十 木枯 十一 うゆ 俗

氷 こおり 十二 衣賦り 暦 こよみ

い

七 大子草 九 えやこ草 形膠

て

正 朝賀 朔行 葵湯 小朔行 朝勤行幸 二月 天子年始 上皇并 母后の宮へ行幸 九月

二 天王寺 聖霊会 九二月 中葉 ふてう 胡蝶 三 天台禮拝 毒十二月 俗 手 吉十三月

丁子草 四 手鞠の花 月 五 朝顔草 月 蟬 午 月 六

天満天神 門 稜 九月 秋深花 俗 九 天満滴流馬 九月 大坂

わ

正 縣召の除目 十月 十二月 ひ 二 紀 俗 麻 まく 蒔 俗 まく 芽 月 三 栗 ぶ

音 流草 十八日 江戸 馬酔木の花 あしび 杏の花 俗 あづま 菊 月

わさつき 月 四 まこ藻 更衣門殿 わ 也 俗 まこ麦 月 菜 草

葵草 二月 葵 青嵐 わさびの花 五 わやめ草 蔕 蒲 永キ根 わやめの湯 わやめの節 ふ湯 四月の節 俗

月 ひけふ 撫子の花 俗 あうぎ 俗 浅瓜 月 白瓜 月 アラムツ 早蕨 ぜんまいの花 俗 まこ梅 月

もち 俗 杏 月 まこ山椒 月 栗 俗 禊 ぶ 麻 二月 なり

鮎 六 鮒 月 愛宕 十日 請 北野 あたき 月 汗

扇 麻 地酒 俗 まこ罪 月 麻 俗 ほうづき 月 俗 まこ月 麻 月 七 天川 銀河 銀浪 星合 銀波

秋と情 秋と情 蓋 月 四月 七夕の 秋さら衣 あふぎ 年年花 八 秋の宮 中宮

の山 青 蔦 俗 江鮭 月 九 まこ初 月 俗 作 まこ

芦の穂わかるゝ　網代　網代守わらわ
（十一）雹われ消ゆ　わぐま

さ

（正）三元　雑煮いとふ　三毬打
左義長　佐保姫　三月ゝ　山椒の花
（二）源氏挑灯
十五日　さわらび　草とり
（三）源氏大念仏　十五日　桜貝
揚魚　揚網　揚うを　揚名の草　揚巻
三月晦
（四）挿木　源氏　わらび　源氏の宴
（五）
五月雨　淫雨　徽雨作　極暑
淫雨　栗花落
花　さつき躑躅　早乙女　早苗　青田　田乃草
（六）
生頭の源氏　十九夕　早桃　座摩祭　小角豆

（八）さび魚
（九）拓榻　さいり
山茶花　さゆり　さゝら夜
（十）砂蒔の妻
（十一）紅豆乃
冬至　十二月朔日　黒汁
（十二）歳宮　大晦日　早梅

き

（正）紙園削掛神事　寅の刻　毬打　むさうとり
きさらぎ　御忌
（二）雉子
弱鷹
（三）曲水の宴　金凡花　菊人形
（四）鴨足
藤　桐の花　拍子木の花
（五）金銀花　忍冬　紙屋の
門無洗
（六）紙屋
盂蘭盆　七日　七日　長刀ぶと　盆茶ぶと
ぼんこうとゝびのス　月ぶと　菊水　菊酒
ぼうか　人形ぶり　菊人形
奴下駄　汗取　干瓢　干瓢とり
人形ぶり　舟ぶと　三艘

イハトヤホ日本記神代の巻のわうさ海し日神岩戸より
岩戸山 岩戸より出ふとこよれむのあなさるとむ
神功皇后三韓とうち給ふ時ふとこよれむ
狩浦川よりて紙つるのよてらなり 高宮山 吹屋の高山 こ筍
郭巨山 釜掘山あり 琴破山 義朱の敷達 琴 蟬
蜻山 立車よむ 白系天山 乃林孫師 拳 白山の仏の上に
古代なり 天狗 宮殿女 天王寺の技本と
釈尊の像を 木賊刈山 大子山 聖徳太子天王寺の技本と
掛ける 芦刈山 花遊人山
桂系うえひ 山伏山 天神山 二
笠降二〇十宮月 橋 奇慶山 三俣 鯉山 鈴門の
黒立 黒立

(七)

うんてふ角男神と 紙屋山 紙屋 紙屋山 毋ぐと
玉鬘記 ちさ人第日 (七) 北野門 水 元巧貴人
鈴のいて 清水 千日清 八 ちさ 九 北野祭 貴布禰
菊合百菊 菊 拓校 蟋蟀 菊

(十)

(ゆ) (正) 揖葉 裏 弓ちう 湯殿始日 宮ちう
宮ちう 遺教経 (二) 百合 (五)
(六) 夕立 夕立 ひさこ

九 柚 俗花柚べし 柚みそ 行く秋 十 富垣 俗 富岸 士 富
七の花 富佛 富とう 富水 俗 ゆきの山

め

正 めさし 五 めとみ 八 名月 名月 こよひ月
名月十六夜月 寄ち月 月見 俗 小望月
端正月 玉蛇月のうら法月 新月 玉兎 白明 十一 雷メ 雷

み

正 三ツ姫 水いるみ 水ぬるむ 三物 三物 俗 詣 二 水
口みず 三 巳ノ日 後上巳ノ日 水の尾糸 九月 子ブツ 俗 薬 生念仏 十二月 俗
御手洗 五月 弘法大師 三茶花 俗 ちうげつ 四 水屋 俗
俗 三月四月 ちうげつ 五月おり 姫萩 ちうげつ 五 水色の巣 水鱧 俗 水
鯨 六 御手洗清 俗 紀の海 海松 海松

し

七 御入 本山七月 御入 御入 花 俗 弟
御入 九 寒摂 俗 みづくき 月 十 御影講 十月
月 上人 忌月 月 下 十月 十一 御影上
下 十月

し

正 四方年 日 ほとゝぎす 時鳥 寅の時 皇 屬 生
十 真言院門 俗 法 八月 獅子頭の神 俗 十 とりえ
白魚 二 積塔 十 社日 月燕 蜆 俗 康 角 落 三 遊
の巣入 蔓菊 減 南 赤 楠花 俗 擬 の花 四 約 糸 俗
巣と作る 苟巣 俗 射干 蜀 薇 桐 梢桐
の花 鹿の 俗 角 俗 五 下野の花 六 清水 紫 横
七 鰹 八 ふゝ 紫苑 鳴 鳴 鳴 鳴

京

略の羽りハ鹿ハ新理する鹿角

九日菊十日白河祭十三日城南寺祭九日鹿谷祭九日推

十 十夜念仏 十一 月東山法

ろ

正 元方物 卍 夷参十月 三 ろび祭 六 江山王祭

四 宮ふ十月下

四 宮ふ十月

九 ろ 巳 ろ

ひ

正 呼吹門切徳経 常陸常陸 十日鹿島明神 二 ひと

良八講 高座 彼岸 彼岸桜 三 ひら祭

十五日 花花 ひくハ 花 ひ 平野祭 申日 廣瀬ふ

日吉ふ 中酉日 義人祭 五 百ふと戰 菖蒲 枇杷

ひ 七 ひ 六 氷室 一日 氷室の氷の切り氷室の氷室の氷室の

十一 松本祭 上ノ申日 十一 餅搗 餅舂 餅つき

せ

正 乾飯舞 三 千本念佛 仏蓮華 ぜん

まい日 四 千間ゴ日 五 蟬 石蔦 六 紫式部

七 簾異ノ朔日 洒涙雨 仏菓花 掛持

九 泉涌寺舎利會八日 打ち せんぐんの宴 仏蓼日

仏縁日 十一 節分 いそ〜れ ひいらきま

す

二 薦ノ子 すくろの薄 板菓 三 住吉堰干

蕪 防花 堂つくれ 四 ちゝみ子 五 未摘花 紅の花

住吉御田植 六 涼風 すゝ 住吉の御祓

すゝ 躍 七 すゝ子日 鈴虫 相撲 八 菅大臣

ナゝ宮の柔ぼう 蔦 きのすゝき 鹿 ちゝすゝ 九 住

石の市 ナゝ宮の 雀 蛤 月令 蔦 住吉

力弁慶 香 蔦 仏花 金盞銀臺 十一 燥掃

十 炭竈 炭焼 炭 十二 水

非

非乗詞

ろ 廣野園 は 花菓子 ひ 稲 栗 ひけ牛房

ふ 藤 花 ほ 花の香 花のほし 花田ちり

花ろか 花丁子 花ろけ 花ゆり 花死 花ちる 花むと

花ま 花舞 花婚 貞徳 花ゆ 梅林 故七川

ぬりの折　清利塞女　御風　作の桜　に　鳥入　蕎麦

にぐりの　ほ　干ぐび　干棗　干大根　干ぶ

干魚のれ　へ　筒商みの　と　灯の花　年れ華　揚げの

洞　ち　菓の表　干柱　ちまれ柱　り　御下屋　御宮

を　菓のさ　茨地　わ　ふれ菓　厳解　ひ縄　か　ふの菓

ぬられ宮　唐金　骨　カニ干　霜　西瓜　る　貞徳云　新

拘　捶　橋　桐　ち　板のれ　た　灯のる　蛸の　揚　炭　玉ち

猫のみ　ぬ　ぬ　ぬれ菓　う　そで切　つ　鶴の菓　橋　作り花れ

土生姜　な　汚の花　菓種　ぬ　ぬ　菓屋　菓食　菓汁

菓紙　ら　菓猫河　利ふの米　し　梅童　貞徳云　激花　ぬ

梅の宮　掠　梅干　いふ　ひ　ぬ　ぬ　ひ　ぬ　と　う　鶏解

の　野あそびのうけ　ん　く　ぬ　ぬ　ぬ

[illegible]花[illegible]に咲[illegible]
庶の角日陰庶の[illegible]
[illegible]の題[illegible]
[illegible]と俳[illegible]
日陰[illegible]
(四)[illegible]
未[illegible]花[illegible]

(五)[illegible]
(六)[illegible]
(七)[illegible]
(八)[illegible]
(九)[illegible]

自徳院云[illegible]
[illegible]
[illegible]

とすめかうさ橋を渡して先人を待
うこゝ一首三よて毎句これをおそ
と若芳とこゝもうすこと毎句これ
一首三八付人をおゆ若やうなる唯一句を面
毎句ゝ毎ハ毎句毎句毎句
いかゝ○字毎句すゝ山おの毎初ん
のゝうゝ毎句毎句毎句毎句
ちゝ毎句毎句毎句毎句
一ゝね字毎句毎句毎句毎句
ねゝ毎句毎句毎句毎句
脇ゝやとうゝ毎句毎句毎句

一ひゝうゝ発句とゝゝゝゝゝゝ脇ゝゝ
ゝゝゝ首三ゝゝゝゝゝゝゝ
付ゝゝゝゝゝゝゝ
一四句めゝうゝゝゝゝゝ毎句毎句
ゝゝゝ但おの毎句毎句
ゝゝゝゝゝゝ
一五句めゝ句めゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ句ゝゝゝゝゝゝ
一八句めゝ句ゝゝゝゝゝゝ
句ゝゝ七句めゝゝゝゝゝゝ

婦てゝり但月ゝてゝ七句めゝ
いそゝいハ句めゝよゝ月ハいゝゝゝゝ
花ハ表句脇月三ゝてゝかゝよゝゝん花
獨吟なれハみ句めゝ句めゝ七句めゝゝいひ
くゝもゝゝゝゝん四句めゝハ句めゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]十一句めより極めの句花
[illegible]
[illegible]十三句めよりなりあがるなり
十四句めより人をあるく極めなり
一初めの一句の発句貴人の御ゆかり家近うう
[illegible]
又芽三八発句と出るしるく四句めの句役
なり但し[illegible]横なれば切れよりもて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一二句かいなる句を添うるなり[illegible]
一五十人初めより人八人[illegible]何句すいしもひ
[illegible]切れよる句数といをするやうなる
[illegible]
[illegible]
一百韻の句れうのうの初めいわりの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一無二無もあらんとおもふ心ばいろく
と仕こなれぬる体色は切たるも自由な
はからくしえいりうりんぶんと云る至
なること事なり

一月の句七つ付は一座の黄人物あるふさるべ
ろく人物ばかりなるべき句数なるべ
一花の句四つ付は四句の花は切去のまたなり
それもよき色とあるひの花といふく句ひの
花といふすみくれ法わり知人なれるる
るくまれたかたる花の色ひおれるること
なるべしくしくしくるべ仕なるく

法

一あげ句は抜とは世ねるくつけ句は不
付ふくれといふく既付ふくるけまと接
物と入て付て又是ラフキ わるれ法ふと
やくくしく句なるまいつくるくしく
りくくれやうよりやくせよくの事く
句韵くは仕やうくれたくるくくらくも事
なくくるる又は秘事おなくれくるふくん

法

句韵之法句数之事

一面八句 表句は芸術節とたくくし素礼
とくくと一作わくへ一切なくくく
くくくく

[illegible]

一面八句　紙所因字と始てくさ〻の歌句

紙所因字と歌句と始てくさ〻の歌句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾や　京
やうも月のうれんとおひ
八のや　むし山めや拾くさ面くの花候て
数のや　ちらねるやうちんなるくようちん
すくのや　ひくかやしとんよいさめとひくひく
竺七くしみくなのくりめ口わひくみんつめハ切さ
八めハ中のやし四つめハ角のやし又みつめハハ
のやし又ろつめくくくひく見ゆみるんくして
くくくく韵やハ拾やく右七ハハをにかのす
めて仕れとやりしのひよとよりしく仕くく
才三て面りくねなのかりりしく面りよ面り
又ハ又なまて面くくるすわりるひハ
玄の寄元ト与名くくり郭一云貞徳
ひくのくくくれ文字面ハ切共ハくくく拾仏ハくくる

ゆくわんけ面とい文字面くいふんわりわや
ちりなくり

月花定座　一面八句内七句月之定座なれて七句目
ちてハひりふすくく自然八句目も
ちくくくくくすくくくもわり

一裏十四句十句めくくくり月の句ハ秋ハ句ハくくくく
十三句めハ花の定座
一二ノ面十四句十三句め月の定座
一三ノ裏十四句　初折ハ裏とはなくく
一三ノ面十四句　二ノ面とはなくく事
一三ノ裏十四句　二ノ裏とはなくく事
一名残ノ面十四句　三ノ面とはなくくく
一名残ノ裏八句　月句ハ一七句目花の定座ハ拾
句ひハ花とはくく八句目ハ月句目ハ座すくく
右百韵之法月花定座為初仏古今ノ格式記之

一四十四句之法　是八面詰之物ずと名殘の物と
二ずして二ずを三ずをぬきまぜでなり法
八面詰のずのごとくにすこし別の子細の
一歌仙之法　一面六句　五句月花之定座
一裏十二句八句月秋十句月花之定座
一名物面十二句十一句月花之定座
一名物裏六句　五句月花之定座
以上　三拾六句也
一源氏之法　歌仙之物新しく面十二句十句の月定座
裏十二句歌仙之物新しく裏十句　以上二十四句を
くくり以上三ずの句数六十句となるなり
一首尾之法　歌仙の面六句と名物之裏六句と
以上句数十二句　ふ首尾しくみとこ法の部
のくくすくし

千

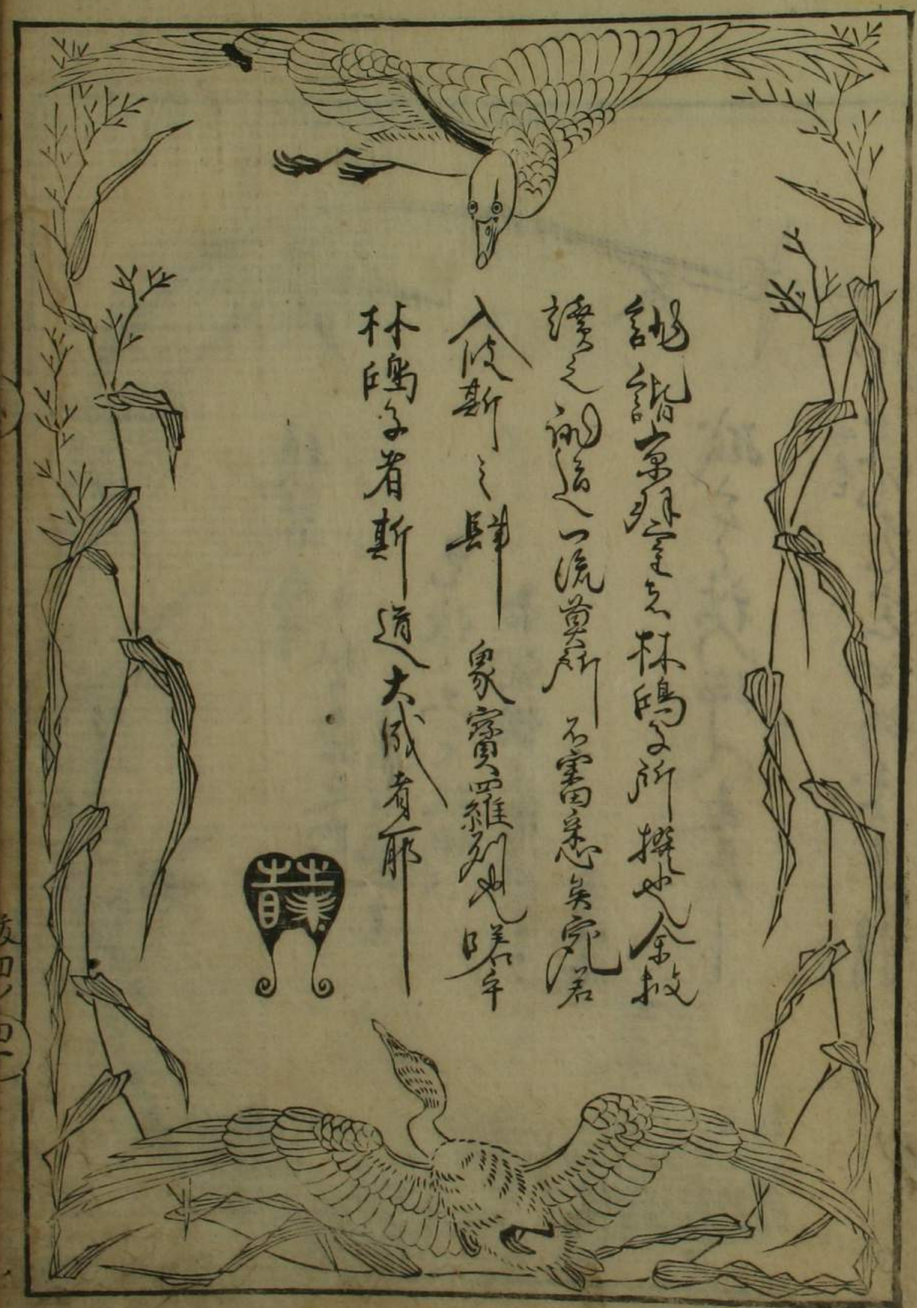
俳諧千句之事

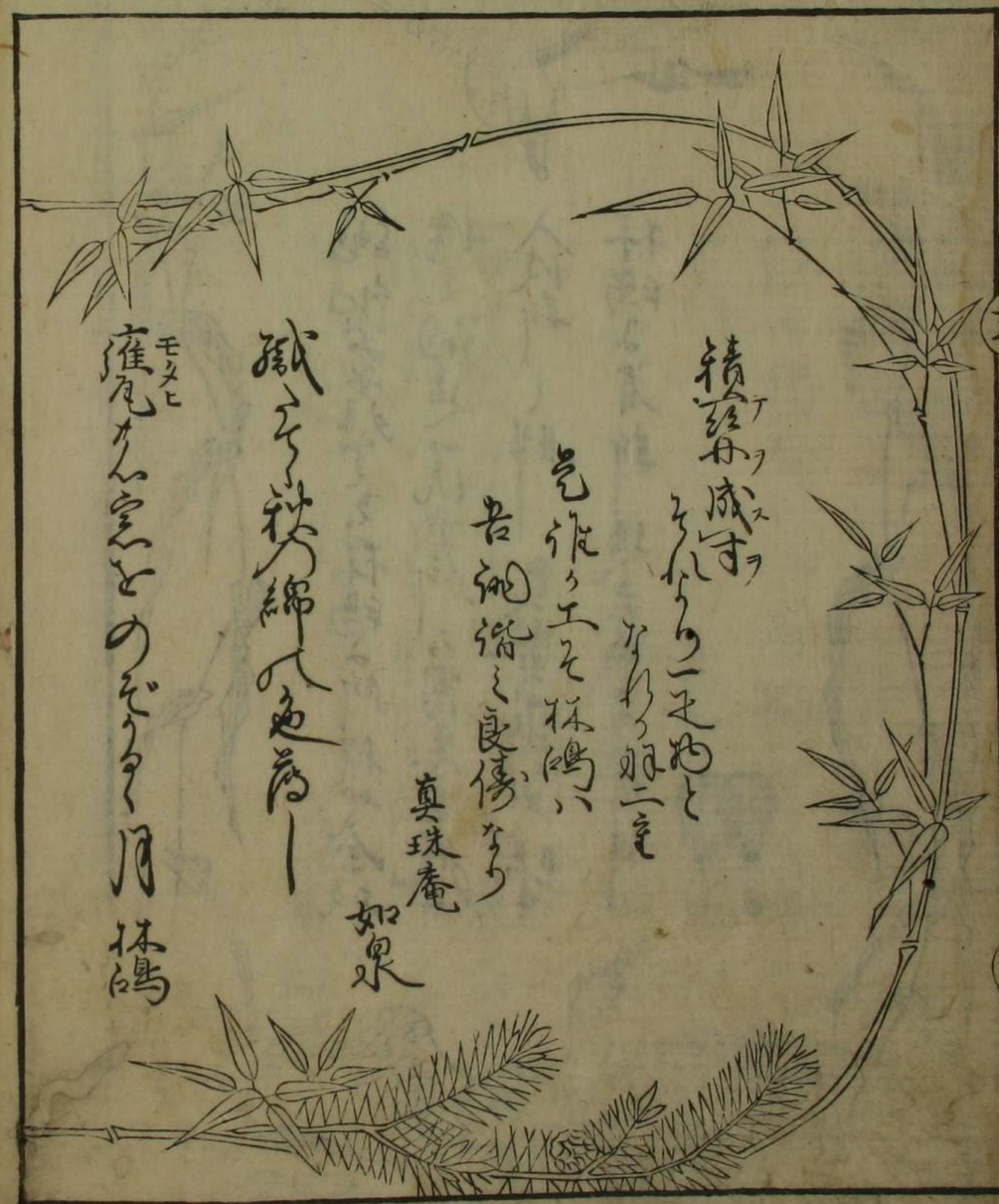
一千句ハ発句数十句也　四季のかやう
春之句三　夏之句二　秋之句三　冬のみ句
二句也　又発句十ずの花ずの月ずし
なとめくくせんかてとれるのあり也
もくくうくすくくしくくく

一書所のみ発句はかれてこれをけるに発句
小ぶりなること世ちかれ発句はかなこと
見も物書家能管梅なとやうれ新うし
めはしくせんとて俗色こうに見みとも
書ふうるみしたれるもなり

右千句之事相すくる有之とも
物心ないこうに家なれいこうれ
初よりつすぶ仏集こうに載る

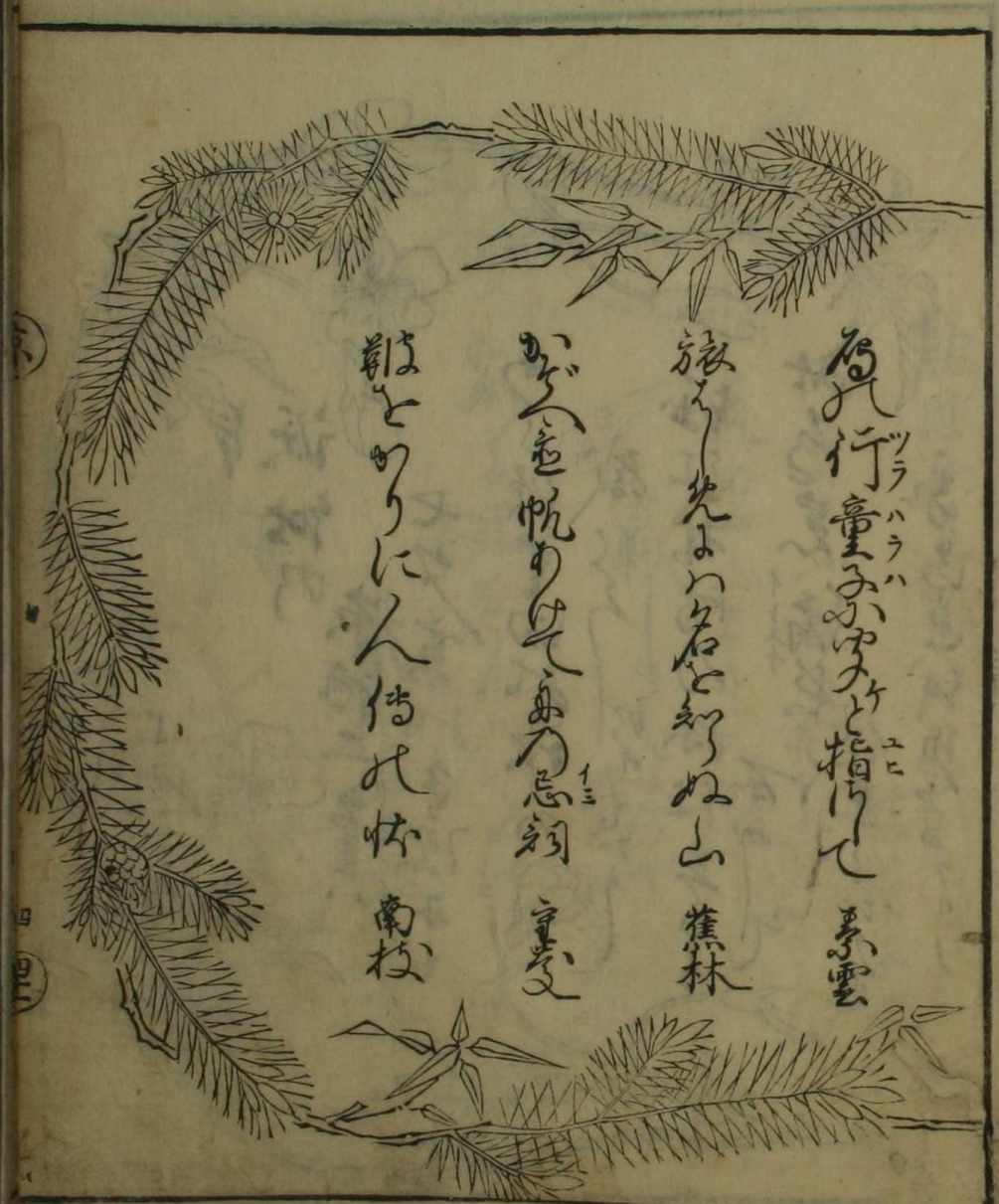
京都二条城



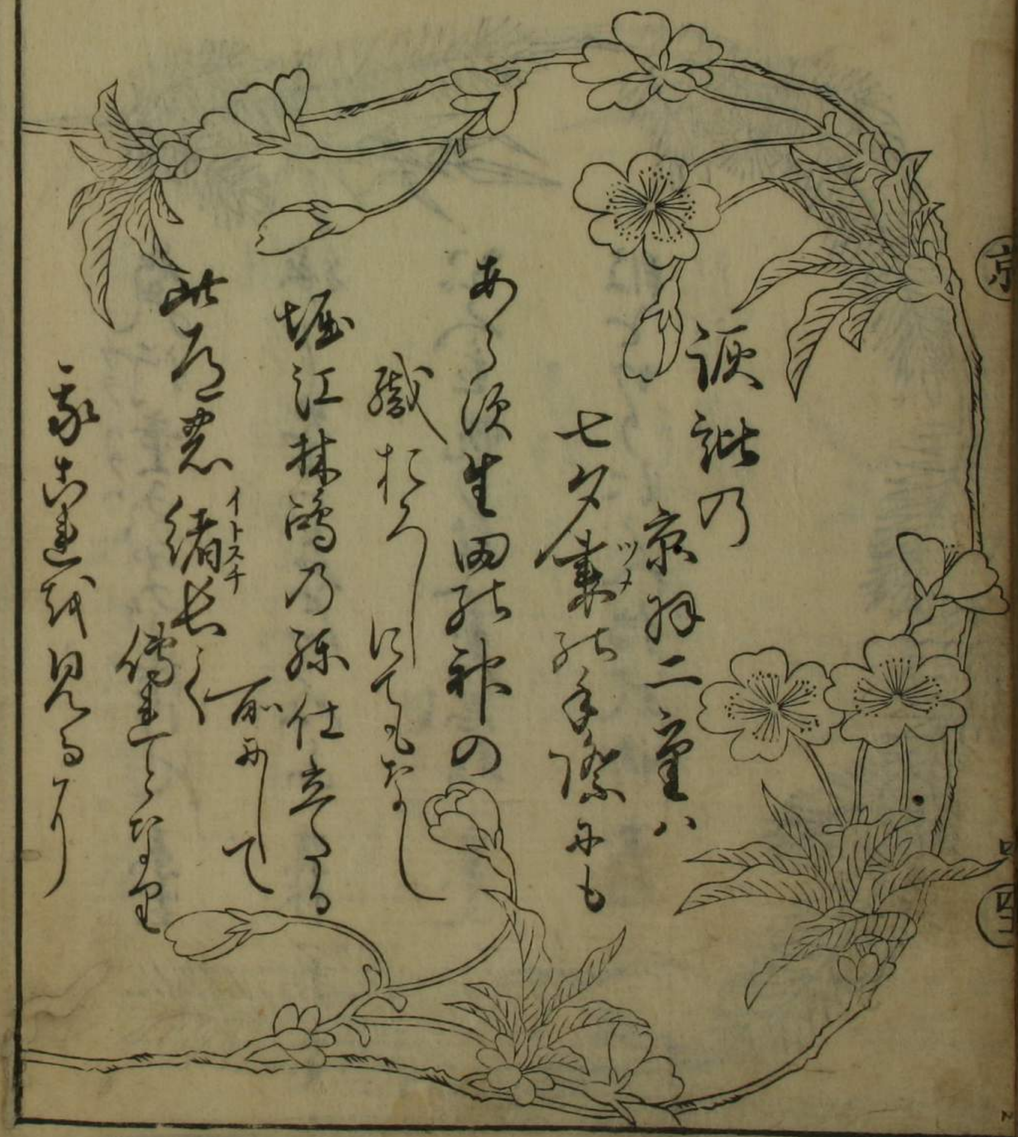


積篠成す
そなたの一言葉と
なれる服一重
見能く工夫抹鴻ハ
吉祥俗と良傷なり　真珠庵　如泉

錦を織る秋綿入通ひ
魔モメヒ人宝をのぞく月　抹鴻



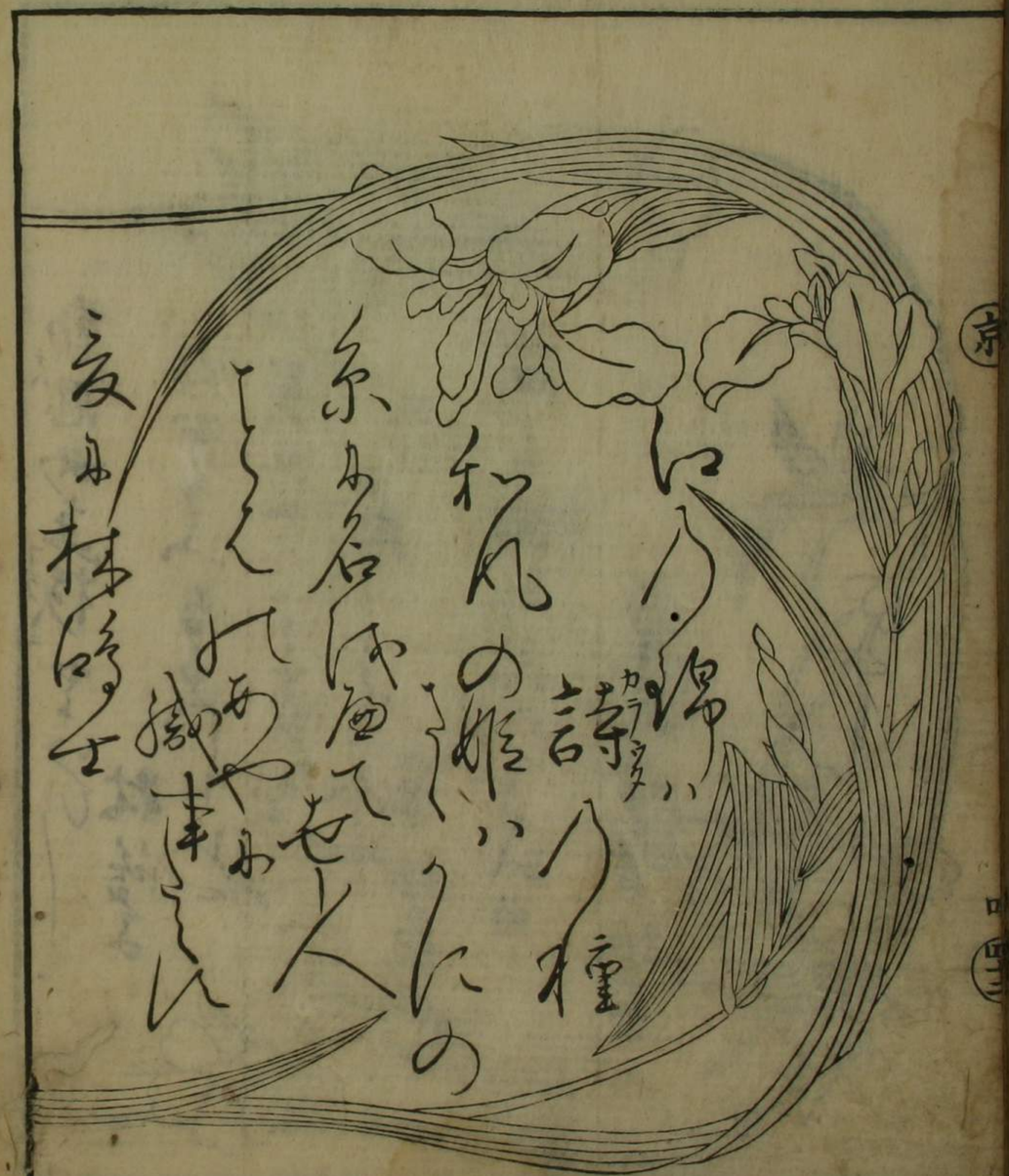
為行ツラハ童ハ小ケと指ユビて　素雲
旅を歩よい名と知るぬ山　蕉林
ぶぐへ亀帆わひて夏忌ヰ羽　宣愛
鞋をはりに人偽れ怖　南枝



源氏物語乃京極二章ハ
七夕集ヲ主ト
あゝ源氏四季の
歌ばかりにてなし
堀江林清乃孫仕立てる
此乃巻(イトスヂ)ハ絹(ツムギ)にて
京極ハ絹にて

勤(テハ)思妙(フシ)ハ機(ニ)やいとなを
ふるゝ
林清ヲ
失(ウシナ)ハ
もるらしを
感して今や
菜(ナ)ハ東
ゆゝ洞(ウルヒ)ん八ゝ孔目

紫化堂芳牧書



詩カラクサ
言ノ種
糸ノ如ク和ルの姫ハ
ことくしてよりあやの錦事
交ル林時雨

五百機ノ門
三ツの一ツの
障ル花ノ
ちるを
京羽二重ノ言水

陳留の若蘭が錦乃織ハ
尺よ満ざるうちに八百余れ文字織
織て連波ぐんのゆよ波てりとうや
粤林酒といふ者あり山の紅葉
ゑを綽(スキ)うつくしく
ぞくとうちのゆく。
京師にて至工なりみうち

吁さらぬ紀とあく
家綿もどりぬ
ぞいうの山ゆけちろも
ぞりとなるふ
たてとと
濤ゆよとくる心一言
酒のぞうよ秋の風

肯元禄四年辛未秋田八月下浣

蘆月庵似船　書之

元禄四年亥
九月吉日
寺町通二條上ル町
井筒屋
庄兵衛板

東京帝国大学図書之印

将軍宣下ニ付大納言愛宕安記